

南砺市長 田中 幹夫 様

要望書

謹啓 初秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚誼にあずかり、厚く御礼申し上げます。

厳しい経済状況の中ではありますが、市民生活向上のために日夜ご尽力いただいておりますこと、当協会支部一同心より敬意を表するところでございます。

さて、地球温暖化に伴い省エネルギー、温室効果ガス削減は喫緊の課題ではありますが、ＬＰガスのクリーン性、効率性、利便性についてご理解を深めていただくと共に、南砺市内公共施設におけるエネルギー選択についてのご提言申し上げます。

オール電化ブームの中で、一般家庭の厨房において電気エネルギーを利用する方が増加している現状ではございますが、耐震性のある公共建物では状況が変わってくるものと理解しております。

万が一の災害時には、公共施設は市民の避難場所となり、即座に熱源等が必要となります。その際、エネルギーの確保や機器が課題となりますが、ＬＰガスの復旧性、即効性、利便性、汎用性については、近年の地震災害等でも実証されております。当協会支部としても、南砺市発足当時より危機回避のためのエネルギーの分散化、ガス厨房採用の要望書を出し続けて参りましたが、近年建設中の公共施設は電化厨房が多く、このことに対し異を唱えるものであります。

環境性からみても、ＬＰガス機器を利用することでオール電化と比べ、トータルエネルギー効率で比較した場合で約４０％～６０％（１次エネルギー～機器）、ＣＯ２排出量で約５０％～７０％（１次エネルギー～機器）の削減効果があるとされており、オール電化は決して環境に対して優しい選択肢ではありません。

京都議定書では１９９０年対比で－６％を約束した日本ですが、産業界の努力にも関わらず、家庭・業務用では逆に約４割も増えているのが現状です。このことについては、オール電化の普及が逆に石炭火力の稼動（北



陸電力の火力発電は全て石炭)を押し上げているのが一番の原因とも言われています。

今後、建設予定の公共施設(市営住宅含む)については、それぞれのエネルギーの特性を活かしたエネルギーのベストミックス、エネルギーの分散化をお願いするものです。とりわけ、ガスが得意とする厨房、給湯分野については、L Pガスをご利用いただけますよう特段のご配慮をお願い申し上げます。

業務用ガス厨房に関しては、暑くなる厨房、清掃しやすい厨房にとする顧客ニーズに応じ、排熱に工夫を凝らした「涼厨」という快適な機器も販売されております。

当協会のL Pガス販売店は全て地元密着である中小零細企業であります。我々にとってみれば公共物件は大口ユーザー様であり、仮にこのまま電化が進めば、地域経済にも大きく影響してくるものと思います。

以上、富山県エルピーガス協会南砺支部会員の総意としてご要望申し上げます。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

平成22年 9月16日

(社) 富山県エルピーガス協会
南砺支部長 野村 守



(社) 富山県エルピーガス協会南砺支部 役員

支部長	野村 守	(ガスコムノムラ 福光)
副支部長	樋口 博彦	(中越産業 城端)
副支部長	山田 昌輝	(山田燃料店 井波)
(福光地区幹事)	長坂 三郎	(長坂燃料店)
(城端地区幹事)	永井 良幸	(永井プロパン)
	井口 強	(J A なんと)
(井波地区幹事)	浅田 直彦	(浅田燃料店)
(福野地区幹事)	谷田 真一	(谷田プロパン)
	得永 覚秀	(J A ホームとなみガスセンター)
監事	鶴見 祐一	(鶴見燃料店)
	杉浦龍四郎	(杉浦燃料店)
会計・事務局	斉藤 義直	(J A 福光)